



学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～

令和2年1月9日(木)発行 No.36 文責 塩川小学校長 佐藤 寅記



「感謝」と「希望」の三学期 ～さらなる飛躍の年に！～

51日ある三学期の1日目、その始業式で、こんな話をしました。

「3学期には、2つの意味があります。一つは、今の学年で身に付けなければならないことをしっかりと身に付け、学年の「まとめ」をする大切な学期です。二つ目は、次年度に向け、一つ多くなる学年で、しっかり学習・生活していくための「準備」の学期でもあります。今の学年のまとめと、新しい学年の準備をしっかりと行ってください。

そこで三学期は、「感謝」と「希望」の2つの言葉を大切に過ごしてほしいと思います。

人は、必ず誰かに支えられたり助けられたりして生きています。ですから、何事にも感謝の気持ちを持って生活して欲しいと思います。その時その時に、「〇〇さん、ありがとう。」の感謝の言葉を口に出して言いましょ。そして、自分はこうなりたいという希望を持つことが大切です。それは、自分を高める原動力となります。

令和2年は、ねずみ年です。ねずみを「子」と書くように、成長・繁栄・発展の年です。この3学期が子どもと学校のさらなる飛躍の年となることを願います。どうぞ本年も本校教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



目標を達成できるように、体調管理をして元気に登校したい。

夢や希望、目標を持つことが必要！！ ～詩乃さんの発表から考える～

授業では、目、耳、頭、心で話をよく聞いて、授業やみんなの考えを理解できるようにしたい。運動では、本番でも力を発揮できるよう目標を持って頑張り、自信を付けたい。そして、何事も、目標を持って計画的にやり、目標を達成できるよう体調管理をして、元気に登校したい。4年 山口詩乃

人は、感じ方や考え方などの内面(資質・能力)が育つことで、社会的な人間へと成長します。聞くより見る、見るより”やってみる”ことが大切です。それも、言われてやるより、自らやってみる方がより効果的です。そのためには、詩乃さんが3回言っている「目標」を持つことが大切です。

夢のある者には希望があります。希望のある者には目標があります。目標のある者には計画があります。計画のある者には努力と行動があります。努力と行動ある者には進歩があります。そして進歩のある者には夢があります。

「あ・は・も」の「も」(目標)の前提には、夢や希望が必要です。また、目標達成のためには、具体的な活動や体験が必要です。本校では、聞いて憶えさせる学習(記憶中心)ではなく、子どもが活動することで、感じたり考えたりする学習を充実させる教育を施してまいります。

プライド教育 ～自分に、学校にリスペクト！

「他人のものさし 自分のもものさし それぞれ寸法がちがうんだな」これは、相田みつをさんの言葉です。この言葉のように、人は得意なところやよいところは人それぞれです。他人の尺度で自分を比べると自信をなくしてしまいがちですが、自分のよいところや得意なところに目を向けられるようになると、自信を高め、何事にも挑戦できるようになります。

本校では、自分の尺度で自分を正しく見つめることを通して自信を高める教育を大切にしています。それを「プライド教育」(自己肯定感や自己効力感、自己有用感等を高める教育)という言葉で実践し、具現していきたいと考えて指導しています。

真の自尊心は、自分が必死に努力をして何かを成し遂げるような経験がないと、それを抱くのは難しいように思います。時間をかけて目標を達成する。もしくはそれに近づく経験をしてはじめて、自己の価値や存在意義が深くわかってくるのだと思います。

そんな経験も大切にしながら、自分を誇れる子どもに高めていきたいと思っています。

ちょっといい話

始業式の日、一番に登校してきたのは、3区1班でした。その班は、5年生班長のMさんを先頭に、一列で整然と登校してきました。また、6年生班長の多くは、「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。」とあいさつしてきました。交差点を渡り終えると、車がなくても自然とおまがりしていました。礼儀正しさと規律ある態度は、本校の自慢です。